

今、「保育」と検索するだけで、某保育園で起きた「不適切な保育」「虐待保育」のニュースがトップに出てきます。今回の事件私たち保育現場においては本当に他人事ではなく、自分たちの日常的な子どもたちへの関わり方や言葉がけ、子どもの人格や人権を尊重するという基本姿勢を見つめ直し、我が身を問い直す機会にしなければならないと思っています。

虐待をしていた当該保育士に対しては、理解に苦しみ同じ保育に携わる人間として決して許されるものではなく、該当する子どもたちやその保護者の方には絶対に「謝罪」すべきです。謝罪しないのなら代わりに謝罪したいくらいです。でも、あの人たちもきっと現在の報道や世論を受けて、自分たちの行っていた行為がどれほど罪が大きく悪質であったかということを目の当たりにするに違いないと思います。それだけ児童福祉施設や幼児教育施設というのは、情報という点で世間や社会との壁やギャップが大きく、良いことも良からぬことも含めて園（施設）の中で起きていることは、世間や社会に「見えにくい」のです。（個人情報と保育・教育の可視化という矛盾が一因）

まずは、その壁を取っ払い、とにかく園の情報や様子や出来事や考え方などをどんどん「外向け」に発信し、公開し、共有していただくこと、だと思っています。その行為や取り組みそのものが、子どもの人権や尊厳を遵守するという事に繋がると捉えています。（もちろん個人情報には個別に配慮し対応します）

そして、虐待を行っていた保育士を擁護するつもりは全くありませんが、日本の保育士配置基準は戦後70年以上未だに更新されていません。先進国の中でも最低レベルの配置基準です。以前、幼児教育先進国のニュージーランドに海外研修でいった際、NZでは、0～2歳25人に7人以上の保育士、3歳以上25人に4人以上の保育士が配置されていました。日本の2倍、3倍以上の配置基準です。NZの保育士さんは本当にゆったりと優しく丁寧に子どもたちと関わっていました。

もう一つは、やはり自分たちで自分たちを律しながら「子どもの揺るぎない人権を尊重する」「不適切な関わりや対応をしない」ための行動や言動を維持していくことです。それは、日々の業務の中で毎日毎日繰り返し繰り返しその取り組みを継続し浸透させていくことだと思っています。

私たち天王寺保育園では、毎朝の朝礼時に「8ヶ条」たるものを毎日唱和しています。子どもや同僚、保護者、園に関係するすべての人に対して、その人の人格や人権を尊重する上で心得て欲しいことを盛り込んでいます。

（1、2、3、4割愛）＝「笑顔で挨拶しよう！」といった内容です

- 5.普通の声のトーンで話そう
- 6.出来ないわからない人を責めないで
- 7.その人の行動の理由や意味を考えよう
- 8.文句や陰口ではなく意見提案しよう

このような地味で地道な取り組みが、すべての人に対して関係性を築く上での第一歩となり、結果的には自分たちにもそれがより良い関係性として還ってくる、そして不適切な保育や関わりということから自分たちを遠ざけ、子どもたちも、関わる人たちも、自分たちも「守る」ことにつながっているのだと認識しています。

また、種の会のマネジメントブック糧にもしっかりと同根のテーマが記されており、会議でも読み合わせを行いました。ご一読ください。